

◎本会の動き◎

☆「女性技術者ネットワーク」 開催報告☆ 開催日：2024年1月29日(月)

男女共同参画委員会では、「女性技術者ネットワーク」という女性技術者・研究者・学生のネットワーク作りを目的とした会合を定期的に開催しています。2023年度は、2024年1月29日(月)18:30から化学工学会会議室/オンラインにてハイブリッド開催致しました。対面での開催は4年ぶりとなりますが、会議室で16名(講師含む)、オンラインで25名の計41名の方にご参加いただきました。

前半の講演会では、先輩女性の仕事やワーク・ライフバランスに関する経験に基づいたお考えや所属組織での取り組みに関して、産と学の双方から講師の方にお越しいただきました。はじめに、東京大学先端科学技術研究センター特任准教授の天沢逸里先生より、「ガラスの天井感じますか？いち大学教員が抱くモヤモヤを紐解く」と題してご講演いただきました。まずはご自身の経歴と研究についてご紹介いただきました。研究では、環境問題に関するLCA評価を行っておられ、生分解性プラスチック製の袋やスプーン、本のシェアリングについてのLCA評価結果から、「環境にやさしい」かどうかは様々な条件がからみ、同じように生活や人生に良いということも

人それぞれだと感じておられるとお話いただきました。

現在、子育てをしながら主にリモートで研究を行っておられる立場で感じておられるジレンマとして、①研究費獲得、②在宅ワークと懇親会(ネットワーキングイベント)③多様性を受け入れるという3点を挙げておられ、制度はあっても周囲の理解や協力が無いと難しい面があるとのモヤモヤをお話いただきました。最後に、一番伝えたいこととして、声に出して伝えることが大事、“I’m an example, not an exception”という力強いメッセージをいただきました。

続いて、三井化学株式会社高分子・複合材料研究所ポリマーテクノロジーグループ グループリーダーの齋藤春佳氏より、「マイワーク・ライフバランス ～子育てしながら管理職をしてみても思ったこと～」と題してご講演いただきました。まずはご自身の経歴について、大学修士課程ご修了後、産・学を含めいくつかの職場を経験された後、三井化学に入社され、現在はグループリーダーとして、次世代機能性ポリオレフィン材料の創出やそれに係る新材料・新技術開発、基盤構築を担当されているとの紹介がありました。

また、プライベートでは3人のお子様をお持ちであり、お子様の成長とワーク・ライフバランスの振り返りについてご説明がありました。やはり第一子では育児の負担が大きく、なかなか思ったように業務に注力出来なかったこと(ワークに向けられる割合は2割程度、特に負担が大きいのは子供の病気の対応と送り迎え)、その後第二子、第三子となるにつれて、徐々に余裕が出来て業務に向けられる割合が増えていったことなど、実際のご体験に基づいたご講演には大変説得力がありました。



講演者の天沢先生



講演者の齋藤氏



本部会議室での交流会



オンラインでの交流会

続けて、これからライフイベントを迎える方へのメッセージとして、「自分にとっての優先順位をはっきりと持つ」、「できないことは自分だけで抱え込まずに助けを求める」、「周りへの感謝の気持ちを伝える」、「自分のキャリアについては早めに考えておく」などを挙げられました。最後に、女性活躍は女性管理職の人数・比率を増やすこととイコールではない、これらは混同しがちだが別次元の話だとのこと意見を述べられました。

ご講演後には、対面およびオンラインそれぞれで参加者の交流会を行いました。対面での交流会では、軽食を取りながら和やかな雰囲気できちんとした交流が行われ、参加者からも大変好評をいただきました。またオンライン交流会では、

参加者からの仕事やワーク・ライフバランスなどに関して、「女性が昇進すると同期の男性に嫌味を言われる」、「女性であるためによくも悪くも目立ってしまう」といった「モヤモヤ」についての議論や情報交換が活発に行われました。

会合後のアンケートでは、「年齢や職種の垣根を越えてお話を伺うことができ、貴重な時間となった」といったコメントも多く、講演会・交流会共に高評価をいただきました。化学工学会男女共同参画委員会では、今後もさまざまなテーマでネットワーキングを企画してまいります。メルマガ等により開催内容をお知らせ致しますので、ぜひご参加願います。

(吉宗美紀(産総研)・三谷 誠(化学工学会))

☆第89年会 学生賞のご紹介☆

本部大会運営委員会

去る3月18～20日に大阪公立大学にて開催された第89年会では、10回目となる「ポスターセッションと学生賞の授与」を行いました。ポスターセッションには400件以上の申込みがあり、現地会場で活発な議論が行われました。

学生会員によってなされポスター審査を希望された発表に対して、産学の正会員と法人会員に属する社員、約200名にご協力頂いて厳正な審査を行い、以下の方々に学生賞を授与しましたので、ここにご紹介します。

なお、審査は、研究の質、発表者自身の理解度それぞれについて、複数の審査員による5段階評価とし、最優秀学生賞(発表件数の上位2%以内)、優秀学生賞(発表件数の上位10%以内)、さらに学生奨励賞(発表件数の5%以内)を設定しました。学生奨励賞は、各セッションの最優秀学生賞、優秀学生賞の受賞者以外で、高評価の方へ授与しました。

受賞者一覧(敬称略)

(以下、同賞内は発表番号順)

■バイオ■

審査対象：83件

発表番号	学校名	氏名	発表題目
最優秀学生賞			
PA171	九州大学	豊福淳大	核酸医薬の経皮吸収を促進するイオン液体製剤の開発
優秀学生賞			
PA112	東京大学	徳丸幹人	ナノ粒子の血中滞留時間の粒径依存性に着目したがんの多色蛍光診断
PA125	大阪公立大学	神場創太	UV変異導入による油脂酵母 <i>Lipomyces starkeyi</i> の油脂生産向上

PA132	神戸大学	富田一輝	大腸菌におけるポリケチイド高生産に向けた代謝工学の活用
PA140	大阪公立大学	山本望友	酵母 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> が分泌する β -グルカンの解析
PA146	名古屋大学	水野滉基	動物細胞における多様性獲得に向けたゲノムシャッフリング技術の検証
PA164	東京大学	赤羽祐紀	DNA触媒反応の多色・マルチサイクル化による複数種のがん関連miRNAの簡便定量
PA182	千葉大学	堀 有音	内部管腔形成と細胞配置制御を実現するハイドロゲル細胞培養系の開発
学生奨励賞			
PA103	大阪公立大学	井上義文	Komagataella phaffii によるメタノールからのD-乳酸生産を目指したD-LDH発現の検討
PA119	大阪大学	赤木駿斗	マルチカラー光による大腸菌代謝経路のフラックス制御技術の開発
PA120	名古屋大学	笹原 純	三量体接着タンパク質AtaAドメインの力学的強靱性の分子メカニズム解析
PA128	関西大学	田中友樹	バクテリオファージの微生物菌叢改変ツールとしての有効性検証
PA167	名古屋大学	多賀 匠	短鎖ペプチドを用いた間葉系幹細胞の品質選択的界面の設計



受賞者の皆さん (大会一日目午後のセッション)

■基礎物性, SIS, エネルギー, 環境■

審査対象：91件

発表番号	学校名	氏名	発表題目
最優秀学生賞			
PB287	東京大学	米塚智也	スーパーストラクチャを用いた三元系リチウムイオン電池リサイクルプロセスの環境影響評価
優秀学生賞			
PB204	静岡大学	Fu Yao	Measurements and Correlation of Diffusivities for Zirconium Acetylacetonate in Pressurized Fluids
PB207	東京工業大学	藤森美夢	二酸化炭素の変換プロセスにおける広い温度領域での気液平衡の推算
PB218	東京大学	楊 凱恩	A Multi-timescale Data-driven Reduced Order Model for Fast Predictive Eulerian- Lagrangian Simulations
PB240	東京農工大学	奥泉達也	バイオマス燃焼におけるリン由来の付着に与えるアルミニウムの影響
PB242	早稲田大学	甲斐田敬済	カーボンナノチューブへの窒化ホウ素コーティングとリチウムイオン電池への応用
PB244	東京工業大学	佐々木健人	PEFCの高出力化に向けたカーボンフリー触媒層の構造制御と性能解析
PB245	早稲田大学	海老名沙羅	Ir担持カーボンナノチューブ膜電極を用いた水素生成のための水溶液中アンモニア電解
PB252	群馬大学	高 鶴	An electronical catalyst with porous structure prepared by carbon nanofibers for methanol oxidation reaction: characterization and performance
PB277	東京農工大学	数田ゆい	牛糞尿と稲わらの混合メタン発酵における含水率の影響
PB285	早稲田大学	松下真大	重質軽油中におけるポリプロピレン, ポリスチレン混合物の触媒分解
学生奨励賞			
PB208	東北工業大学	早瀬英良	ポリプロピレン中のプロピレン溶解度と拡散係数の測定と推算
PB209	中央大学	渡部 栞	分子動力学計算を用いたCO ₂ 吸収に優れるChCl系深共融溶媒の溶液構造の検討
PB217	東京大学	和田蒼汰	医薬品製造における超音波除染プロセスのモデル化と設計

■超臨界流体, 材料・界面, エレクトロニクス■

審査対象：90件

発表番号	学校名	氏名	発表題目
最優秀学生賞			
PC246	京都大学	段上翔太郎	マイクロリアクタを用いたPd-Ru固溶体合金ナノ粒子の室温合成と触媒活性評価
PC288	東京工業大学	藤井陽太郎	電着法を用いた表面構造制御によるアニオン交換膜型水電解用非貴金属多孔体触媒の開発
優秀学生賞			
PC202	名古屋大学	楠美海斗	珪藻の高分子による凝集が液化ジメチルエーテルによる脂質抽出に及ぼす影響
PC204	東京大学	堂脇大志	高温高圧2-プロパノールとNi触媒充填反応器によるジフェニルエーテルの連続的移動水素化分解
PC205	東京大学	関将太郎	ピナコール転位反応に基づく高温高圧水中でアルコールが示す酸触媒効果の解明
PC215	東京工業大学	室之園相生	超臨界CO ₂ を媒体とした酸化鉄ナノ粒子の高濃度合成におけるエンターナ効果
PC251	京都大学	小池貴誠	海洋分解性ポリマーの生分解速度に対する固体構造の影響
PC266	東京工業大学	榎本航平	光熱変換エアロゲルによる加湿環境下での大気中CO ₂ 直接回収と安定性評価
PC284	東京大学	松宮和生	流体構造連成によるトラス状ハイドロゲル微粒子の流動状態の解析
学生奨励賞			
PC218	大阪大学	四方 志	脂質二重膜近傍の水にコレステロールが与える影響に対する分子動力学解析
PC228	東北大学	齋藤 迅	有機色素分子を用いた中空多孔質粒子への吸着による分子局在化に関する検討
PC232	山口大学	吉高京華	多孔質高分子粒子を用いた粘膜透過促進のためのナノエマルジョンの開発
PC243	名古屋大学	Xie Bo	化学量論比を制御したMg-Gaスピネルナノ粒子の超臨界水熱合成
PC261	日本大学	白石優成	海水溶存Ca・Mgを活用したCO ₂ 回収・有効利用技術の構築 - 製塩工程液へのCO ₂ /O ₂ /N ₂ ファインバブルの導入による炭酸塩の製造 -
PC282	東京工業大学	藤田佳那	膜細孔を認識場とする圧力応答型バイオセンシング法の構築



受賞者の皆さん (大会二日目午前のセッション)



受賞者の皆さん (大会二日目午前のセッション)

■粒子・流体プロセス、分離プロセス■

審査対象：88件

発表番号	学校名	氏名	発表題目
最優秀学生賞			
PD335	東北大学	蛭田大稀	DEMによる非ブラウン高濃度スラリーにおけるシアックニングのメカニズム解析
優秀学生賞			
PD310	大阪公立大学	市田珠奈	被還元鉄鉱石の湿式造粒特性
PD336	大阪公立大学	尾崎 凌	噴霧乾燥法による固体電解質の連続合成
PD339	神戸大学	西川天海	分子動力学法によるフッ素含有ポリアミド有機溶剤逆浸透膜のモデル化
PD362	東京工業大学	舞弓哲史	アンチファウリング膜設計に向けたポリマー表面改質と多成分解析
PD365	大阪大学	内藤 陸	温度サイクルを用いたデラセミ化における鏡像異性体過剰率の増幅過程の解明
PD371	九州大学	神園麻裕	疎水性深共晶溶媒溶媒を用いた自動車触媒からの白金族金属分離回収プロセスの開発
PD377	神戸大学	上野美早紀	分子シミュレーションによるポリアミド膜モデル作成と膜汚染分子の吸着機構の検討
PD387	九州大学	松井武次郎	アミノ酸型抽出剤を浸出工程に用いたLiB正極材の持続可能なりサイクル
学生奨励賞			
PD302	埼玉大学	小林良輔	加熱したノズルから流下する溶融ガラスの運動
PD320	大阪公立大学	鬼塚貴大	尿素の加水分解を利用したマグネタイトナノ粒子のメカノケミカルアシスト合成プロセスの解析
PD328	千葉大学	齋藤雄平	マイクロコーン間隙に生じる流れを利用する細胞の免疫分離デバイス
PD347	工学院大学	Haddar Ines	Improvement of low-fouling properties in RO membranes via surface modification with poly (2-methoxyethyl acrylate)
PD373	東北大学	蘇 鈺	Measurement of Terephthalic Acid (TPA) Solubility under Hydrothermal Condition
PD378	九州大学	佐藤 颯	ニッケル鉱石からのNi, Coの選択的な浸出を可能とする疎水性深共晶溶媒の設計



受賞者の皆さん（大会三日目午前のセッション）

■反応工学■

審査対象：57件

発表番号	学校名	氏名	発表題目
最優秀学生賞			
PE326	早稲田大学	岡 順也	化学気相成長法によるシリコン-活性炭複合材料の作製とリチウムイオン電池負極への応用
優秀学生賞			
PE305	早稲田大学	橋本一也	スピネル酸化物とSSZ-13からなるタンデム触媒を用いたCO ₂ からの炭化水素合成
PE322	神戸大学	森口佳奈	g-C ₃ N ₄ /HfNb ₃ O ₉ ナノシート複合光触媒膜の膜性能および光触媒性能に及ぼす酸化グラフェンの添加効果
PE331	東京工業大学	野口晴菜	外表面酸点を不活性化したZn/ZSM-5触媒によるイソブタノールからのp-キシレン選択合成
PE340	早稲田大学	大橋美彩子	単結晶Si基板への多孔質層形成、単結晶Si膜の急速エピタキシーと機械的剥離
PE349	早稲田大学	田中 駿	安全なエッチング剤を用いたカーボンナノチューブの乾式精製法の開発
PE353	信州大学	鈴木健心	バガスの熱分解過程におけるバイオ炭収率と元素組成の予測
学生奨励賞			
PE312	神戸大学	野口伊吹	Cu担持ゼオライト成型体触媒を用いたp-クレゾールの一段階合成
PE328	東京工業大学	高野真那	バイオマス熱分解オイルの有効利用を目的としたゼオライト内包Ni微粒子触媒の開発
PE337	東京工業大学	Liao Qiancheng	Structural Effects of Connected Pt Catalysts on Enhanced Oxygen Reduction Performances



受賞者の皆さん（大会三日目午後のセッション）

大会webサイトでもご紹介しておりますので、是非ご覧ください。

https://www4.scej.org/meeting/89a/pages/jp_prize-89a.html

☆2023年度部会活動貢献賞☆ (部会CT賞) The Award for Distinguished Service to SCEJ Divisional Activity

[部会CT賞表彰にあたって] (福原長寿 部会CT長)

化学工学会では、基盤技術分野として6部会および展開技術部会として8部会がそれぞれ横系および縦系として各学問分野での専門家集団を形成し、その分野の学会代表として積極的な活動を行っています。また、国際的にも我が国の研究者集団の代表として国際シンポジウムの開催を行う等、積極的に寄与しています。このような部会活動は部会員の皆様の努力によって支えられていますが、特に若手会員の不断の貢献に因るところが大です。この貢献に少しでも報いるべく2010年度より部会活動貢献賞として部会CT賞が設けられました。貢献された個人のみならずグループも表彰の対象となります。本年度は14回目の表彰となり、企画、運営等の部会活動の活性化に大きく貢献された以下の2件(1名、1分科会)を受賞者として選定しました。

受賞者の表彰は、2024年3月にオンライン・オンサイト併用開催されました第89年会初日の式典にて行いました。受賞者のこれまでの献身的な貢献に感謝するとともに、今後も部会をはじめ化学工学会の諸活動に御支援賜りたく、ここにお願ひ申し上げる次第です。

最後に、この度受賞されました方に、心よりお祝いを申し上げます。

超臨界流体部会における部会活動の企画、運営と 活性化への顕著な貢献

材料・合成分科会

【超臨界流体部会】

超臨界流体部会では、2014年度に、材料・合成分科会、基礎物性分科会、エネルギー分科会及びバイオマス・天然化合物分科会の新たな4つの分科会が編成され、笹居高明氏と百瀬健氏はこの分科会の1つである「材料・合成分科会」に発足当初の2014年から分科会リーダーとして、分科会の起ち上げとその後の運営に尽力しています。笹居氏は2014年度から2016年度まで副分科会長、2017年度から現在まで分科会会長を務めており、百瀬氏は2014年度から現在に至るまで副分科会長を務めています。また、両氏は2014年度から現在に至るまで超臨界流体部会の幹事も務めており、分科会活動のみならず、部会活動全般にわたる企画、運営と活性化への顕著な貢献を行っています。

笹居氏と百瀬氏を中心とした材料・合成分科会は、これまでに2015、2019および2023年度の超臨界流体部会サマースクールの

企画・運営を行い、日時・場所の設定、講演内容ならびに講師の選定といった企画運営の全般を担われました。2015年8月10日～11日に開催された第14回サマースクール(船橋市)では、「超臨界流体を利用した材料・合成技術－物性の把握から材料設計・評価まで－」と題して、講演内容及び講師の選定において、超臨界流体を利用した材料・合成技術に関する講演に加えて、超臨界流体系の基礎物性や超臨界流体を利用した分析などの幅広い分野の研究に関する講演を企画されました。さらに、若手研究者に研究戦略や今後の研究指針を紹介してもらい、先達からのアドバイスによる若手研究者の一層の活性化、ならびに学生をはじめとした後進が研究を進める上で参考となる情報交流会を取り入れる新しい試みを企画発案し、若手研究者や学生の研究の活性化や人材交流に対して顕著な功績を残しました。2019年7月25日～26日に開催された第18回サマースクール(仙台市)では、「超臨界流体×材料・合成技術の融合」と題して、超臨界流体と電気化学の融合、超臨界流体と表面処理の融合、超臨界流体と新領域への挑戦、ならびに超臨界流体と高分子材料というこれまでに超臨界流体部会主催でのシンポジウムやセッションにおいて、講演されていない研究に関する講演を企画され、部会活動の広い展開、深化ならびに他学会等との連携に対して大きな貢献を行いました。2023年8月23日～24日に開催された第22回サマースクール(秋田県山本郡藤里町)では、これまでのサマースクールの実施形態や趣旨を大きく変え、「地域を活かす超臨界流体技術」と題して、地域、特に東北地区での超臨界・高圧流体技術の研究を紹介する機会を設けるだけでなく、化粧品の量産に使われている超臨界抽出技術についてアルピオン白神研究所を見学して実用化の現場の取り組みを理解する機会を提供しました。これにより、超臨界流体技術をSDGsに資する形で実用化するダイナミズムを理解するという部会活動の一層の発展に貢献されました。さらに、本サマースクールでは、併催として小規模な国際会議である「国際的超臨界活動推進企画－台湾・韓国における超臨界流体技術活用の現状－」を新たに企画立案・運営されました。ここでは、韓国・台湾における超臨界流体技術のキーパーソンを講師としてお招きして、対面で議論するという非常に貴重な場を企画していただいたことにより、東アジアでの超臨界流体技術の現状を共有し、今後の部会活動における韓国・台湾との交流のきっかけを作るといった部会活動への多大な貢献をされました。現在、超臨界流体部会では、国際連携や国内連携の専任幹事を新設するといった、日本のみならず国際的な関連学会・研究会等との連携を強く意識した部会の活性化を図っています。

笹居氏と百瀬氏が企画したこれまでのサマースクールでの企画を通じて、化学工学会だけでなく我が国の他の学会・研究会との連携が強化されるだけでなく、超臨界流体技術に携わる多くの研究者との国際的な連携が強化されるものと期待できます。

また、2017年9月20日～22日に開催された化学工学会第49回秋季大会(名古屋大学)および2021年9月22日～24日に開催され

た化学工学会第52回秋季大会（岡山大学，オンサイト・オンライン併用開催）の超臨界流体部会シンポジウムを企画・運営し，シンポジウムの趣旨，講演内容ならびに展望講演，招待講演，依頼講演等の講師の選定といった企画運営の全般を担われました。特に，化学工学会第52回秋季大会でのシンポジウムでは，超臨界流体部会の節目である20周年記念シンポジウムとして，「日本の超臨界流体技術－これまでの20年とこれから－」を企画・運営し，超臨界流体部会を長年支えてこられた4名の著名な研究者の招待講演により超臨界流体部会20年の歩みを振り返るとともに，亜臨界・超臨界流体の物性などの基礎から，亜臨界・超臨界流体の環境，エネルギー，材料分野等への応用までの幅広い視点での最新の研究成果について，5件の若手研究者による依頼講演などを基に活発に議論する場を提供し，部会活動の節目を飾るだけでなく，幅広い年齢層や分野・職種の部会員が部会の歴史と意義を再認識し，今後の発展や展開に繋がるものとしています。本学会はCOVID-19による行動制限下において開催されたため，オンサイト・オンライン併用開催という難しい運営であったにもかかわらず，積極かつ効率的にオンラインを活用してシンポジウムの成功に導くことに尽力されました。

さらに，筈居氏は2016年，百瀬氏は2018年の化学工学誌10号の第9章9.3節材料・合成の執筆委員を担当し，本部会活動の関連資料の取り纏めに貢献されました。

以上のように，両氏が34歳の2014年度から現在（43歳）に至るまで，筈居氏と百瀬氏は超臨界流体部会における部会活動の企画，運営と活性化への顕著な貢献があり，今後の更なる部会活性化への貢献が大いに期待されます。

以上の理由により，部会CT賞の受賞に相応しいと認められました。



右：百瀬 健 氏
中央：筈居 高明 氏
左：福原 長寿 部会CT長

エネルギー部会活動の活性化及び部会活動の効率化への顕著な貢献

石飛 宏和 氏(群馬大学)

【エネルギー部会】

石飛宏和氏は2008年の化学工学会入会以来，エネルギー部会の若手メンバーの一人として部会活動に積極的かつ献身的に尽くされ，部会の活性化に大きな役割を果たされました。

まず，2018年に鹿児島大学で開催された第50回秋季大会では材料・界面部会や反応工学部会と共催した部会横断シンポジウム「電池・エネルギー変換・貯蔵技術の新展開－ナノからマクロ，材料からシステムまで－」のオーガナイザーとして，主にポスターセッションの運営を主体的に行い，39件の学生ポスターに対する表彰審査プロセスを円滑に運営し，部会の活性化に尽力されました。このポスターセッションは当時学生表彰を出しているシンポジウムは限られていたこともあり，部会関係の学生の研究モチベーションを上げるものとなりました。また，2019年に開催された国際会議International Symposium on Innovative Materials for Processes in Energy System 2019 (IMPRES 2019) は約200名の参加者があったエネルギーシステム・プロセスに用いる材料に関する国際会議ですが，石飛氏は実行委員としてアブストラクトの審査，パンケット（参加者数約130名）の司会（英語），論文特集号の編集で尽力され，国際会議の成功を支えました。この国際会議の開催と運営への貢献に対して，辻口氏，大坂氏の両名に既に部会CT賞（2021年度）が贈られています，石飛氏の貢献も大きなものでした。一方，石飛氏は2019年度～2020年度に材料・界面部会の部会事務局担当に就任しており，その際もエネルギー部会，材料・界面部会，反応工学部会で共催する秋季大会における部会横断シンポジウムの運営をサポートするなど部会間連携に注力されました。材料・界面部会の若手討論会である材料化学システム工学討論会の幹事（2020年～2022年）に就任し，関連するエネルギー部会及び反応工学部会にも広報を行い，反応工学部会側の講演者を招待するなど部会間の若手研究者交流に尽力されました。

石飛氏の貢献で特に大きなものは，2021年度～2022年度のエネルギー部会庶務幹事としての活動です。当初，部会員数約500名の大所帯のエネルギー部会は，部会の中の情報の伝達や共有化が必ずしもスムーズに行われておりませんでした。さらにコロナ禍によって活動が制限されたこともあり，部会としての活力が見えにくくなりつつありました。このような状況の中，石飛氏は庶務幹事として，部会ウェブサイトを再構築・更新してインターネットを活用した情報発信を行い，会計処理をオンライン化し，部会活動の企画や主催・共催・協賛行事の報告に関してオンラインフォームを作成し，部会総会や部会幹事会をオンラインで開催して会議資料をオンライン掲載するなどデジタル化を推進して部会

の中の情報伝達方法の再構築と効率化を図り、部会活力の維持、向上に尽力されました。また、部会賛助会員（部会法人会員）に対して積極的に連絡・広報を行い、部会活動における産学交流を活性化しました。さらに、エネルギー部会では初めての企画となる第1回エネルギー部会シンポジウム（2023年1月19日に開催）に庶務幹事として企画、運営に携わり、対面とオンライン配信のハイブリットの開催となる中、ウェブサイト構築し、現地会場（東京大学武田ホール）の下見やオンライン配信（Zoom）の準備、化学工学会法人会員への広報、会計処理に献身的に尽されました。その結果、有料のシンポジウムとしては多数と言える産側57名・学側33名、計90名の参加者を得、シンポジウムを成功に導きました。参加者からは「非常に有益な内容だった。」「非常に興味深かったので、ぜひこういう企画を続けていただけるよう希望いたします。」等多くの好意的な意見をいただきました。このように部会の活動を内外に示すことに尽力し、部会の活性化に大きく貢献されました。

石飛氏は現在もエネルギー部会エネルギー変換デバイス・システム分科会の幹事として分科会活動に携わっておられ、今後益々の活躍が期待されます。

以上のように同氏はエネルギー部会活動に献身的に尽力されました。

以上の理由により、部会CT賞の受賞に相応しいと認められました。



右：石飛 宏和 氏
左：福原 長寿 部会CT長

（静岡大学 福原長寿）

☆持続可能なプラントEXPO 2024☆

本会が特別協賛する展示会が開催されます。

会期：2024年7月24日（水）～26日（金）10:00～17:00

会場：東京ビッグサイト 東7ホール

主催：一般社団法人 日本能率協会

展示会の詳細、来場事前登録は公式サイトにて確認・申し込みをお願い致します。

「持続可能なプラントEXPO 2024」

<https://sustainable-plant.jma.or.jp/>